**緑の時間「総合的な探究の時間」**

 ―音楽や美術など自分の専門や興味のあることをどのように地域と繋げていくのか―

テーマ　「ディズニーが掛ける魔法」　〜全ての人が、楽しめる空間を作るには〜

11.テーマ設定の動機設定の動機（例）

私私は東京ディズニーリゾート(TDR)が大好きで、将来はTDRに関わる仕事がしたいと思っています。そこで、私の大好きな東京ディズニーリゾートがなぜ沢山の人の愛されているかを、知りたいと思い調べることにしました。そしてディズニーが行なっている工夫を知り、全ての人が楽しめる空間、全ての人に愛されるデザインを作ることができたらいいなと思います。

2.仮説の設定○○

私が考えるTDRの工夫は、「景観」「音楽」「キャスト」にあると考えました。この３つはどれかが１つでも欠けてしまう、あるいは、徹底できていないと、TDRのキャッチコピーである『夢が叶う場所』はできなくなってしまうと思います。になのでここからは、TDRの工夫を「景観」「音楽」「キャスト」という３つの項目に分けて、調査結果をまとめていきたいと思います。

３.調査結果

①TDRの「景観」について。

東京ディズニーリゾートはなぜ、現実離れしているように感じるのでしょうか。

その理由の１つに、〔周りの建物が見えない〕という理由があると思います。TDRは出来るだけ大きな植物やアトラクション施設などで周りを囲んでいます。そのため、ディズニー外からディズニーは見えますが、ディズニー内から外のマンションなどは見ることができません。さらに植物については、成長の仕方や季節まで計算され、冬季でも「緑が美しいパーク」を保っています。(植物の入れ替えなどは、夜に行います。)

２つ目の理由には〔普段見えているものが見えない〕という理由があると思います。TDRは消火設備などの災害時用の道具を全て、人の目線から消しています。(天井から降りてくる。)みなさんはもしかすると、「それでは本当に災害が起きた時に困るのではないか。」と思うかも知れません。しかし2011年3月11日、東日本大地震の日。TDRも震度5〜6程度の大地震に見舞われましたが、怪我人(負傷者)はなんと0人でした。その日は両パーク合わせて(ゲスト7万人プラス、約1万人のキャスト)約8万人の人がTDR にいました。地震が来た時は、ランドでは『ジュビレーション』、シーでは『レジェンド・オブ・ミシカ』(水上ショー)をしている最中でした。そしてその日のキャストの内9割がバイトで、ゲスト7万人のうちの、帰宅難民になってしまった約2万人と共に園内で一晩を過ごしました。食事は、「レストラン」や「お土産用」のものを無料配布し、冬で寒かったためもあり、防災頭巾を兼ねて「ダッフィー」などの、ぬいぐるみも無料配布されました。そして園内では夜遅くまで「イルミネーション」が光っていたそうです。このようにTDR は『見えなくても、安心できるパーク』になっているのです。

そして最後、３つ目の理由は「大きな時計がない」ということです。TDR のパーク内には大きな時計がありません。さらに、パレードやショーの前のアナウンスでも「あともう少しで〜。」などの表現を使い、時間をはっきりと表現しないのです。このような細かい徹底により、ゲストは『時間を忘れて』夢の世界に入り込むことができるのです。

②TDR の「音楽」について。

先程までは、見た目だけの話でした。しかし空間は見た目だけでは成り立ちません。そこで、次は「音楽」の工夫について話していきます。TDRはそれぞれのエリアごとに、雰囲気にあったBGMが流れており、エリアとエリアの境目に滝などの［水］を使うことでBGMが混ざらないようになっています。さらにスピーカーは、ゲストの視界に入りにくいように、

ランドでは目立ちにくい緑色(ゴーアウェイグリーン)のスピーカーにし、

シーではショーが始まるまで、スピーカーはゲストに見えないようにしまわれています。視界にスピーカーが入らないことにより、さらにディズニーの世界観に入り込むことができます。

③TDRの「キャスト」について

TDRでは、すべて合わせて約7万人のキャストが働いています。そのうちの8〜9割がバイトの方です。

TDRにとって「キャスト」とはなくてはならない存在で、

「キャストさんに会いたい！」という理由でディズニーに行く人が1番多かったです。TDRは、青空を背景にした巨大なステージです。ここでは、見るもの全てが『ショー』であり、訪れるお客様は『ゲスト』なのです。そして、ゲストを迎え、もてなすスタッフはショーを演じる『キャスト(役者)』と呼ばれています。私たちは普通の人ではなく、物語の一部として存在しているのです。なので、エリアによってキャストの挨拶が違ったり、コスチュームが違ったりします。挨拶の違いについては例えば、

シーのメディテレニアンハーバーであれば、「チャオ！」

と言われたり、

トイストーリーマニアのキャストからは「こんばんは！」と挨拶されます。

さらに、コスチュームもエリアごとに違うデザインで「コスチュームを見るために！」とディズニーに行くゲストもいます。

そしてキャストのもう１つの魅力は〔人柄〕です。

TDRのキャストは、いつでも笑顔でとても楽しそうで、見ていると、こっちまで笑顔になってしまいます。さらにキャストには〔会話力〕もあります。

私が以前7年ぶりにディズニーシーに行った時、その日は雨が降っていて、家族で「雨、残念…。」のような話をしていたところに、キャストさんが来て

「ウォルトさんが、『また、来てね。』って言ってるんだと思いますよ！。」と言われました。その瞬間キャストさんの言葉が嬉しくて、涙が止まりませんでした。

また別のときは、ぬいぐるみを連れてレストランに入ると「何名さまですか？」と聞かれて「4人です。」というと、シェリーメイの方を指して

「5名さまですね。」とキャストさんが言って、

テーブルに5つの椅子と、シェリーメイ用のランチョマットを出してくれました。このように細かい気配りや、サービスのおかげで、私達ゲストは、より、現実を離れた「夢の世界」にいる気分になれるのです。

5.分析と考察

私はこの研究で、空間というのは

『その場所にある全てのものが、協調していかなければいけない』

ということがわかり、「五感」全てを使うことが、その世界に入り込むために必要なのだと思いました。

建物などの・・・・・・・『見た目』→視覚

BGMなどの・・・・・・『音楽』　→聴覚

植物や空気の・・・・・・『匂い』　→嗅覚

飲食物などの・・・・・・『味』　　→味覚

壁など手に触れるものの・『感触』　→触覚

プラス、キャストやキャラクターの「優しさ」や「笑顔」。

この６つがどれひとつ欠けずに存在することで、TDRは

今まで愛されてきて、

そしてこれからも、愛され続けるのだと改めて感じました。ディズニーは、障がい者も楽しめるような工夫が沢山

あります。例えば、車椅子のまま乗ることができるアトラクションがあったり、ショーのさいに、キャラクターのセリフ、歌、ショーの情景を手話で表現してくれるキャストもいます。

こんなにも沢山のサービスがあるのに、世界にあるディズニーリゾートの中で日本のTDR の入場料は1番安いのです。私もこの研究を制作に活かし、見た目だけでなく、自分の作品を見る人の「気持ち」まで考えられるようになりたいと思います。

6.現時点で残っている問題点や疑問点

　なぜキャストの9割が、正社員ではなくアルバイトなのにあれほどのクオリティを保ち続けることができるのか。

7.感想

　私はこの研究を通して、よりディズニーのことが好きになりました。『ディズニーリゾート』はすごい場所で、

本当に「夢」が叶うし

本当に「魔法」にかけられてしまいます。

ディズニーに初めて行った時のことは永遠に忘れないと思うし、あの「感動」は他の場所では絶対に味わえないと思います。

入り口でキャストさんに

「いってらっしゃい！」って言われた瞬間。

キャストさんや、キャラクターに

「ハッピーバースデー」って言われた瞬間。

キャラクターや、他のゲストに手を振った瞬間。

ミッキーやミニーとハグした瞬間。

ショーを見て初めて「嬉し涙」した瞬間。

その日そこで起きた全ての瞬間が『宝物』になる場所です。

ディズニーと同じものを作ることは、絶対に不可能です。

でも、誰かの「感動」や「思い出」「笑顔」を作ることは

私にもできるはずです。

私は将来、ディズニーリゾートのキャストさんのように

「感動」や「笑顔」を与えたり、

「思い出」作りのお手伝いをできるような仕事につきたいと思っています。　そのために、日々の作品作りの中で

自分の好みだけではなく、見る人の気持ちを客観的に考えながら作品を作ろうと思います。

8.参考文献・URL

・ 東京ディズニーリゾートキャストの仕事　　講談社/編

・ディズニーランドが非日常空間を作り出している理由https://one-archi.com/disneyland-design/

・ディズニーの空間について

https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/management/yamauchi/mrrf43000000lgxh-att/mrrf43000000mmr7.pdf